

## 外国語活動，外国語科の研究の概要（1年次）

### 1 外国語活動，外国語科における思考力・判断力・表現力を育成する言語活動

外国語活動，外国語科の目標の中核であるコミュニケーション能力の育成においては，外国語でのコミュニケーションを通して，児童生徒の思考力・判断力・表現力を高めることが重要である。これらの力は，児童生徒が身に付けた外国語を用いて自分の気持ちや考えを伝え合うことで育まれると考える。このことから，児童生徒が外国語あるいは伝える内容に注目して，より主体的に思考・判断・表現できるよう，実際の言語の使用場面（コミュニケーションの場面）を設定し，児童生徒に伝え合う活動を指導することにより言語活動の充実が図られると考えた。

具体的には，図1にあるように，伝え合う活動においては，児童生徒が主体的に学習に取り組む態度が重視されることから，児童生徒にとって価値があり，興味深いと感じられる題材について言語活動を設定し，物事を考え判断させたり，使用する外国語や伝え方を工夫して表現させたりすることが必要である。

小学校の外国語活動では，児童の学習段階に応じた身近な英語や基本的な表現に慣れ親しませることが重要である。限られた単語・表現であっても，児童の思考の柔軟性を生かした活動を充実することにより，自分の日常生活等と関連付けて考えたり，自分の思いを様々な方法で伝えたりするなどのコミュニケーションを図る楽しさを体験させることができる。（図2）

中・高等学校の外国語科においては，外国語を理解するだけにとどまらず，自らの考えを相手に伝えるための発信力の育成をねらいとした4技能の統合的な活動が重視されている。聞き手や読み手として主体的に考え判断しながら理解し，話したり書いたりして自分の考えを表現することができるよう，理解した内容を自分の体験や知識等と結び付けて価値判断したり，学んだ言語材料を用いて感想や意見を表現したりしていくなどの活動を設定することが重要である。（図3）

以上のことから，それぞれの「言語活動の充実」の捉え方を次のとおりとした。

#### <外国語活動>

コミュニケーションを図る楽しさを体験することを目的として，身近な外国語に慣れ親しんだり，伝え方を工夫したりする活動を充実すること。

#### <外国語科>

聞いたり読んだりして理解した内容等について，自分の体験や知識等と結び付けながら考えたことを，話したり書いたりして表現するなど，4技能を統合的に活用する活動を充実すること。

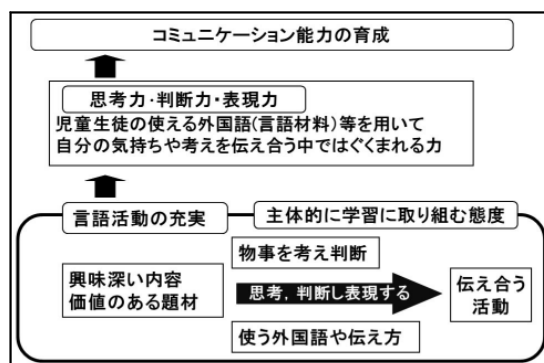


図1 思考力・判断力・表現力を高める言語活動

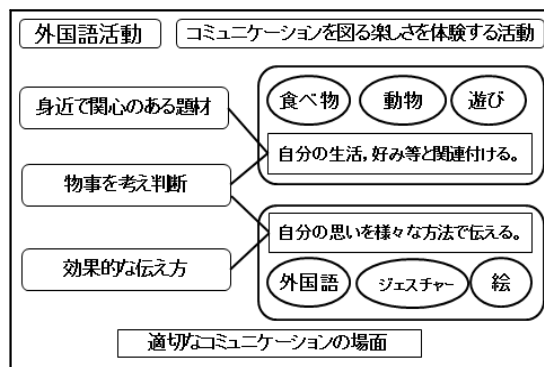


図2 コミュニケーションを図る活動のイメージ

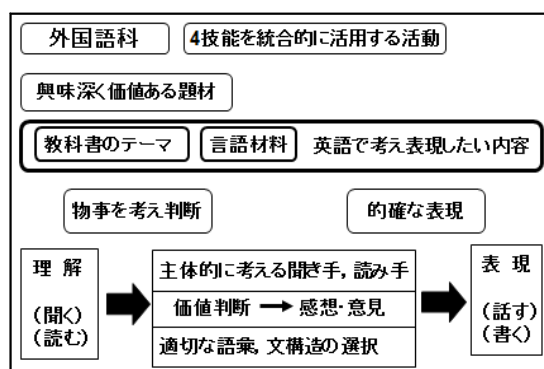


図3 4技能の統合的な活動のイメージ

## 2 外国語活動、外国語科における「思考・判断・表現」の評価

### (1) 評価の観点全般について

#### ア 外国語活動

外国語活動の目標に照らして行う評価は、以下の3観点から行う。

観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 (コ)	外国語への慣れ親しみ (慣)	言語や文化に関する気付き (気)
趣旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言語の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方がることなどに気付いている。
対評象価 (例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動への関わりの様子</li> <li>様々な表現手法の工夫</li> <li>相手との関わりを大切にしている様子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語を用いて表現している様子</li> <li>外国語を通して理解している様子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語と外国語の相違点等に気付いている様子</li> <li>日常生活等について、日本と外国の相違点等に気付いている様子</li> </ul>

※ 以下文中では、「関心・意欲・態度」「慣れ親しみ」「気付き」と記載

※ 学習指導要領に示された目標等を踏まえて各学校において追加した観点を含む4観点も設定可能

#### イ 外国語科

中・高等学校の外国語科の目標はいずれも「コミュニケーション能力を養う」ことがその趣旨であり、中学校では、小学校段階で育成された「素地」を踏まえその基礎を養い、高等学校では中学校で養われた基礎を伸ばすということが示されている。中学校の外国語の目標に照らして行う評価は以下の4観点から行う。

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (コ)	外国語表現の能力 (表)	外国語理解の能力 (理)	言語や文化についての知識・理解 (言)
趣旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。
対評象価 (例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動への取組状況</li> <li>コミュニケーション継続への努力の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確な発話、筆記、音読の状況</li> <li>適切な発話、筆記、音読の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確な聞き取り、読み取りの状況</li> <li>適切な聞き取り、読み取りの状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語についての知識の定着状況</li> <li>文化についての理解の状況</li> </ul>

※ 以下文中では、「関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「言語・文化の知識」と記載

### (2) 「思考・判断・表現」の観点について

#### ア 外国語活動

外国語活動における児童の「思考・判断・表現」の表出は、前述の3観点に表されている児童の状況が統合的に発揮された結果と考えられることから、「関心・意欲・態度」、「慣れ親しみ」、「気付き」の趣旨を踏まえて児童の活動の様子を見取り、評価規準を設けて適切に評価する必要がある。

コミュニケーションを図る楽しさを体験させる活動の設定に当たっては、児童の興味・関心を踏まえ、発達の段階に応じた外国語を用いて、様々な相手と互いの思いを伝え合えるようにすることが大切である。活動で使用される外国語はドリル等で定着を図るのではなく、慣れ親しむ活動を通して身に付けさせる必要がある。その際、「気付き」の趣旨に含まれる外国語と日本語との違い、音声の面白さ、多様な発表方法などに着目させ、その面白さや豊かさに気付かせることが効果的である。同様に、活動の中で「気付き」の範疇である生活、習慣、行事など世界の人のものの見方や考え方に意識を向けさせることで、児童の表現したいという内容に

広がりをもたせることも可能である。伝え合う活動においては、言語のみに頼らず「関心・意欲・態度」の趣旨に含まれるジェスチャーや絵などといった、言語によらないコミュニケーションの手段を使ったり、相手のことをよく知ろうとする態度を取ったりすることも外国語活動におけるコミュニケーションの質の向上に大変重要である。「思考・判断・表現」の評価にあたり、児童の発話だけに着目せず、発達段階に合った言語や文化の体験的理解、コミュニケーション時の表現方法及び態度も考慮した上で、児童のよい面を見取っていく必要がある。

以上のことから、本研究においても「関心・意欲・態度」、「慣れ親しみ」、「気付き」の3観点から評価規準を設け、児童の「思考・判断・表現」の状況を総合的に評価することとする。

#### イ 外国語科

外国語科における生徒の「思考・判断・表現」は、外国語で理解したことについて考え、思考したり、判断したりしたことを表現する過程で表出することから、前述の4観点のうち、基礎的・基本的な知識・技能を踏まえながら、主として「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の観点から生徒の表現や作品等を評価規準に照らして適切に評価する必要がある。

これらの能力は、例えば、教科書本文の内容について、聞いたり読んだりして得た情報や考えを的確に理解し、その題材に関する自分の考えなどを、相手を意識して既習の言語材料を用いて適切に伝えるといった、4技能を統合的に活用する言語活動の中で育成される。外国語学習であることから、発信するために必要とされる語彙や文構造等の知識・理解を基盤としながらも、言語の自然な使用場面として統合的な言語活動を行う中でこれらの言語材料が各技能としてどのように発揮されるかを見取することで、外国語科における「思考・判断・表現」を評価することにつながると考える。

以上のことから、音声や文字等の情報を基に内容理解が適切に行われ、学習段階に応じて、自分の体験や知識と結び付けて感想や意見を述べたり、適切に表現できるよう必要な言語材料や表現形式を選択したりできるかなどが見取りの重点となる。

### (3) 外国語活動における評価規準と外国語科における判断基準の設定について

#### ア 外国語活動

前述のとおり、児童の「思考・判断・表現」の状況を総合的に評価するに当たり、目標に照らして3観点から評価規準を定めて評価を行うことが適切である。外国語活動においては、英語そのものの習得が主たる評価の対象ではないことから、「できる」「できない」という見取りで数値化して評価するのではなく、評価規準の設定を通して、教師が授業の中で求める児童の具体的な姿を想定し、児童の個々の状況を見取っていく必要がある。児童の具体的な姿の想定により、どのようなポイントで指導すればよいか明確になり、各活動のポイントとなる事項を児童に示すことができる。このように、評価規準を適切に設定することで「思考・判断・表現」の評価及び指導の充実につなげることができる。

以下に外国語活動における評価規準の設定の手順を示す。

評価規準設定の手順	具体的内容
① 単元の目標に照らした評価規準の設定	単元終末時の子どもの姿の想定
② 単元の「指導と評価の計画」の作成	各時間の観点の絞り込みと評価規準の設定
③ 授業（及び評価の対象となる言語活動）の実施	活動のポイントとなる事項に基づく指導
④ 評価規準に照らした評価	評価規準に基づく行動観察等
⑤ 評価に基づく指導	活動において良かった点をあげて確認

イ 外国語科

生徒が理解したことを基に自分の日常生活と関係付けて考えたり、自分の思いを様々な方法で伝えたりする4技能を統合的に活用する言語活動の評価において、「外国語表現の能力」や「外国語理解の能力」の評価規準に基づき、学習状況を分析的に表した「判断の要素」を設定しておくことで評価の視点が明確になる。さらに、下の表1のように、判断の要素を具体化した尺度である「判断基準」を設定することで、生徒の活動を適切に見取ることができる。評価の結果、「努力を要する状況」の生徒に対しては、判断基準のどの項目が達成されていないかが明確となり、その項目ごとの的確な支援ができる。また、具体的な判断基準にしたがって想起される生徒の作品等を教師が作成することができ、教師は単元を通してどのようなことを指導すればよいかを的確に把握することができる。

以下に外国語科における判断基準の設定の手順等を示す。

判断基準設定の手順	具体的内容
① 単元の目標に照らした評価規準の設定	4技能の統合的な言語活動の設定
② 判断の要素を設定	評価規準で設定された生徒の学習状況の分析(指導及び評価の重点)
③ 判断の要素を具体化した尺度の判断基準を設定	予想される表現例等の設定
④ 単元の「指導と評価の計画」の作成	評価の対象となる言語活動の設定
⑤ 授業(及び評価の対象となる言語活動)の実施	判断基準等を指導のポイントとして指導
⑥ 評価規準及び判断基準に照らした評価	生徒の内容理解の確認や自己表現等の評価
⑦ 特に必要な生徒への補充指導を行う。	判断基準を指導のポイントとして指導

表1 評価規準と判断基準(例)

評価規準(外国語表現の能力)	
○ 本文の内容について要点を適切に聞き取り、文化によるあいさつなどの違いについて、既習の表現を用いて自分の考えや感想を書くことができる。	
評価時期及び評価の対象(思考・判断に基づく表現内容)	
○ 6時間構成の第2時における終末時 ○ 教科書題材を基にした生徒の5文程度の英作文	
判断の要素	
ア 内容理解に関する記述 イ 自分の考え ウ 語彙,文構造,文章構成 エ 英文の量	
尺度	判断基準
B	ア 登場人物の言動の引用がある。 イ 登場人物への賛否がある。 ウ 効果的な文構造を使用している。 エ 5文程度の英文である。  It's (good/OK/not so good). I think~. because~.
生徒C状況への	(予想される生徒の表現例) I thought Jenny was often angry at first. But I understand her now. It is rude to ask "Where are you going?" in Jenny's country. So I want to ask "How are you?" to Jenny because I want her to know Japanese people are not rude.
A	○ 登場人物の言動を要約している。 ○ 理由付けの根拠や例示がある。 ○ 英文が充実し、接続詞等が効果的に使われている。 ○ その他、(B)状況以上にあると認められるもの。
生徒B状況への	(深化指導) 現在ある作品の内容や状況を確認し、更に良くするという視点で「登場人物の言動を要約している」「理由付けの根拠や例示がある」等の視点から、指導する。

単元の目標に照らして設定する。

評価規準で設定された生徒の「思考・判断・表現」の学習状況を分析的に表す。

判断の要素を具体化した尺度にする。

判断基準に照らして予想される生徒の表現例を示す。

特に指導が必要な生徒には判断基準に照らして補充指導を行う。

「おおむね満足できる」学習状況の生徒に深化指導を行う。

【平成23年度 調査研究発表会】

第5分科会（外国語活動、外国語科）研究発表

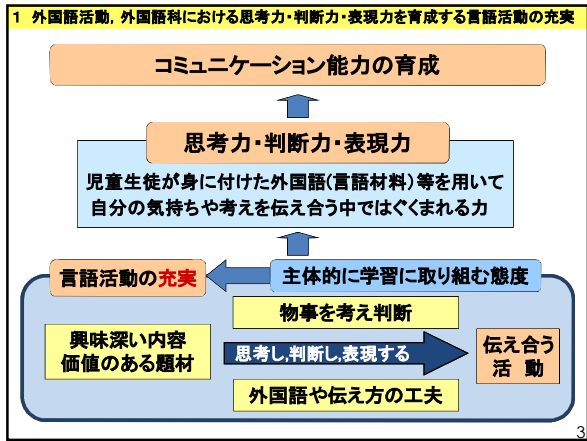
「思考力・判断力・表現力を育成する  
指導と評価に関する研究」



鹿児島県総合教育センター

発表内容

- 1 外国語活動、外国語科における思考力・判断力・表現力を育成する言語活動の充実
- 2 外国語活動、外国語科における「思考・判断・表現」の評価
  - ・ 実態調査より
  - ・ 評価の観点全般について
  - ・ 「思考・判断・表現」の観点について
  - ・ 判断基準の設定について
- 3 研究の成果と課題



1 外国語活動、外国語科における思考力・判断力・表現力を育成する言語活動

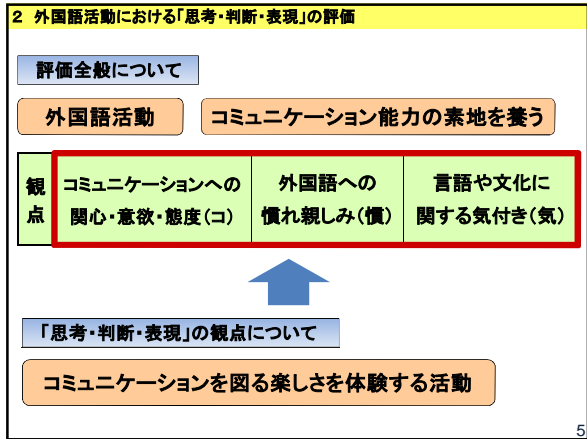
「言語活動の充実」の捉え方

外国語活動  
コミュニケーションを図る楽しさを体験する活動

外国語科  
4技能を統合的に活用する活動

課題

児童生徒が、思考、判断し、表現したことを言語活動を通してどのように評価するか。




2 外国語活動における「思考・判断・表現」の評価

「英語ノート1」 Lesson4 の例

単元の目標

身近で関心のある題材




物事を考え判断

効果的な伝え方の工夫

求める児童の姿

慣れ親しんだ外国語を使って、好きなものを伝え合ったり、聞き手を意識しながら自己紹介をしたりしている。



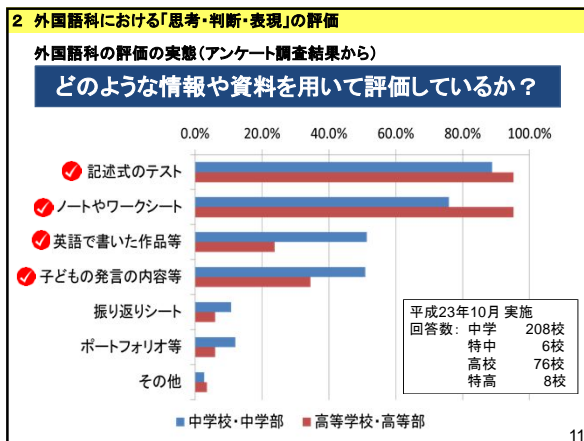
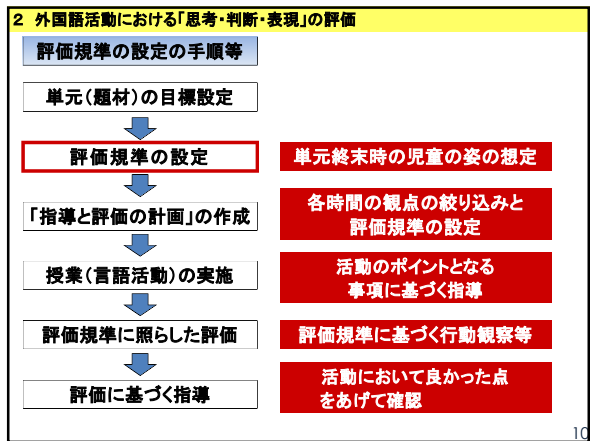
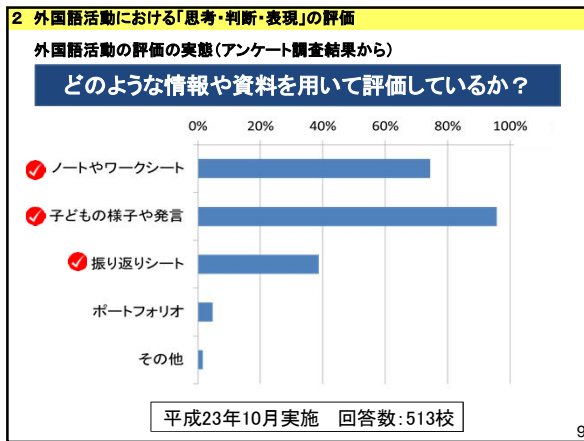
2 外国語活動における「思考・判断・表現」の評価

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
評価規準	・自分の好きなものを含めて友だちと積極的に自己紹介している。	・好きなものを友だちに尋ねたり、自分の好きなものを英語で言ったりしている。	・外来語と英語の音の違いに気が付いている。
	ジェスチャー アイ・コンタクト 絵の使用	I like～. Do you like～?	×バナナ Obanana

2 外国語活動における「思考・判断・表現」の評価

指導と評価の計画

時	目標と活動	コ	慣	気
1	○ 外来語と英語の音の違いに気付く。 ○ 自己紹介の仕方に気付く。 ・カルタゲーム ・キーワードゲーム			○
2	○ 自分の好き嫌いを言う。 ・チャンツ ・アクション・ゲーム		○	
3	○ 友だちに好き嫌いを尋ねる。 ・チャンツ ・インタビュー	○		
4	○ 自己紹介をする。	○	○	



2 外国語科における「思考・判断・表現」の評価

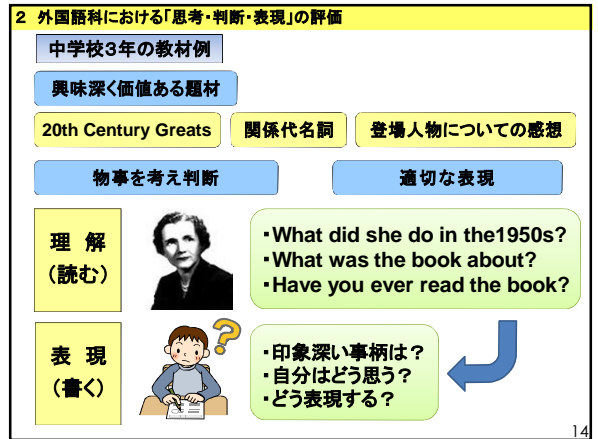
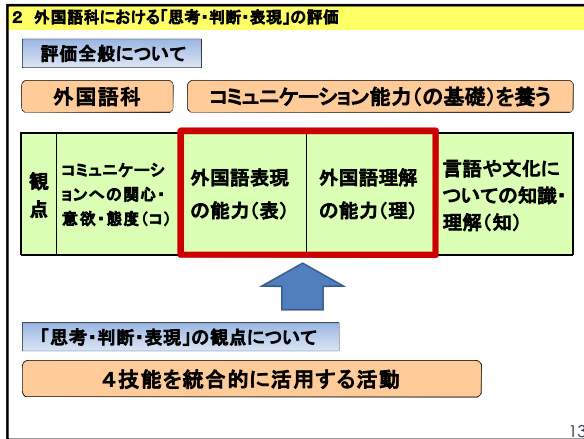
中学校3年生 登場人物についての感想を書こう。

生徒作品例 1

Carson was a great writer because she wrote *Silent Spring*. The book was about nature. I think nature is very important.

生徒作品例 2

I think Rachel Carson is a great woman. Because she wrote a book which changed our view of nature. The name of the book is interesting. I want to be a scientist like her.



2 外国語科における「思考・判断・表現」の評価

指導と評価の計画

時	主な学習活動	コ	表	理	知
1	20世紀の偉人についての聞き取り			○	○
2	彼女の人物像についての理解 ・事実を確認する質問			○	
3	彼女の業績についての理解 ・生徒自身のことについての発問			○	
4	彼女の生涯についての理解			○	
5	彼女についてのレポート作成		○		
6	カーソンの生涯で一番印象に残ったことと、そのことについての感想を書く。	○	○		

15

